

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

(平成 28 年 3 月 7 日 午後 4 時 00 分)

●議長 (小林幸雄) 休憩前に続き、会議を開きます。

通告の 6 荒井賢蔵議員。

- 1 新年度予算と町長の政治姿勢
- 2 医療費窓口無料化について
- 3 病院建設について

議席番号 13 番・荒井賢蔵議員。

◆13 番 (荒井賢蔵) 議席番号 13 番・荒井賢蔵です。新年度予算と町長の政治姿勢について伺います。

今、安倍自公政権に見る国内の経済状態は、一部の企業を中心に内部留保資金が何兆円も増える一方で、年収 200 万円以下の非正規雇用労働者が増えていると報道されております。このことを裏付けるように、2 月 16 日総務省が発表した労働力調査詳細集計では、安倍自公政権の 3 年間で、正社員が 23 万人減少した一方で、非正規雇用の労働者は 172 万人増えたとのことであります。また、安倍自公政権は安心につながる社会保障を掲げていますが、しかし、毎年 8 千億円から 1 兆円に上る自然増を、年 5 千億円を大きく下回る 4412 億円に抑え込みます。安心につなげる社会保障なんて、どの政策を見ても言えません。

これらに見られるように、貧富の差がアベノミクスにより一層拡大したことは、衆目のしている事実だと思います。収入が国民年金だけでしかなく、1 円でも切り詰めようと努力している低年金生活者、また、先日報道されていた、2 人の子どもがティッシュペーパーを食べて空腹を我慢していた、このような生活困窮者がいるなどは、貧富の格差、そのことの表れそのものです。2 人の子どもの報道をちょっと、読んでみます。「白い飯、サラダ油、醤油。2 年前に生活保護を受けるまで、長野県に住む女性の食卓にしょっちゅう並んだ献立だ。ざっくり混ぜて食べると脂のコクで空腹か満たされる気がした。最初はツナ缶の残りの油をかけていたが、缶詰が買えなくなった。長女 9 歳と二女 8 歳は美味しいよと食べた。お腹を空かせた 2 人は当時、女性に隠れてティッシュペーパーを口にした。二女は塩をふって嘔みしめた。ティッシュって甘いのもあるんだよ。後になって長女が教えてくれた。いい香りのする、もらいもののティッシュは嘔むと一瞬甘いという。そんな困窮状態になっても、周囲に助けてとは言いだせなかった。」このように報じられていました。

このような切実な実態を目の当たりにして、格差社会を大変、憂うべき状況にあると私は考えますが、町長はどのように、今の社会の状況を認識しているか、まず伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 荒井議員さんの御質問に、お答えをさせていただきたいと思います。今ほど御質問の中で、子どもの貧困対策等々も含めて、雇用の問題、大変厳しい状況も出てきているということをおっしゃられたかなというふうに思っているわけですが、私はある面では、その雇用の問題については、非正規労働が、労働者が増えてきている、そのことは、今後の日本経済全体の問題にとってみても、ちょっと憂慮する問題ではないかなというふうに思っております。全般的に、特に私ども地方からしますと、一人ひとりの人間という捉えた場合もありますけれども、政治的な立場からしますと、末端の政治を任されている自治体の長としても、税収の豊かなところ、そしてまた、なかなか税収が上がらないで施策に苦しむと、そういう、いろいろ問題が今、出て来ているのかなというふうに思っているところであります。以上です。

●議長(小林幸雄) 荒井議員。

◆13 番(荒井賢蔵) 町長の政治姿勢の前に、この先日の招集の挨拶の中で、古間駅のことを言っておられましたので、ちょっと先にそれを聞きたいというふうに思います。

前の議会で、駅のホームと列車の間隔のことを言いましたけれども、古間駅もやはり、間隔と段差がありました。挨拶の中で、身障者駐車スペースの設置とありましたが、ということは、このホームの改修をして、段差や間隔をなくすということ、これも入るのか、簡素な駅機能活用による利便性向上、とありますけれども、これをもうちょっと具体的に聞きたいというふうに思います。

●議長(小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) この件については、新聞報道も翌日あったわけではありますが、基本的には駅の構内の問題ではなくて、古間という駅が、単線と言いますか上りも下りも同じホームとして活用していると、こういう中で、障害をお持ちの方も階段を上っていかなくていいし、利便性があるというようなことで、じゃあその駅ホームの問題も、ちょっと後で述べますけれども、駐車場と言いますか、そこはやはり障害のお持ちの方等々に配慮すれば、入口付近については、しっかりとそういうスペースを確保してやる必要があるだろうと。そしてまた関連ですので、全体的に、自転車等々で通われている皆さんも以前よりも減っていると、こういうことでございますので、その駐輪場等も、スペースについては壊したり、若干整備をしたいということでもあります。

今、ホームのことも申されましたけれども、これは黒姫駅もそうですね。古間駅もそうです。いわゆる電車の乗降位置と、そしてホームの段差が非常にあると、これについては、前にも副町長の方からお答えをさせていただいたと思うのですが、しなの鉄道の方に、先般も改めて文書をもってお願いをしているところでありまして、これについては、順次、駅を、順番に、しなの鉄道としても改修をしてきているということでございますので、要は、前段申し上げたのは、私の町として、今やるということでございます。

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 身障者用の駐車スペースという点では、当然、車椅子などの人にもよい、というようなことも当然含まれるだろうというふうに思います。そうした場合に、その人たちが列車を乗り降りする際に、じゃあどうするんだということを考えても、この段差と間隔、これはやはり必要でありますし、ちょっとやはり車椅子でなくても、体の不自由な人、お年寄りやそういう皆さん、以前もありましたけれども、単線であれば片側で乗り降りが、上り下り両方できるということになれば、なおさら、直すというか、それに列車に合わせるのにもいいのではないかとこのように思うので、是非そこも、しなの鉄道に、ただお願いするだけではなく、町も若干負担してでも、やはり早めにやるように、というふうに思うのですが、そこはどうですか。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 先ほど、町長からお答えしたとおりなのですが、駅の中の線路、それから構内等については、しなの鉄道の管轄でありますので、行政で工事ができる状態ではございません。そのようなことで、しなの鉄道へ要望書という形で上げてありまして、古間駅、それから黒姫駅のホームについては、改修をしてほしいということと上げてあります。ただ、しなの鉄道も、他の駅もまだ、かさ上げをしてないところがありますので、計画の中で進めておるといようなことであります。工事をやるに当たっては、各自治体の負担金を、当然払っていただく中で工事を進めるというのが条件でありますので、できるだけまた早急に実施できるよう、要請は重ねてしていきます。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 各地でもやはりそうだと。だから順番で、今やられるということだけれども、しかし、少なくとも信濃町、ひとところだけでも、黒姫と古間があったら、古間だけでも早くにやってもらおうというふうに、うんと運動をしてほしいと思うし、要望していつてほしいと思うんですよ。やはり今のところ、じゃあ、何番くらい、あと何年後くらいに、というふうな見方しているのか、どうなのか、そこはどうでしょう。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 要請の中では 29 年度を目途、というふうなお話をしていましたけれども、はっきりとまだ、しなの鉄道から文書で回答はいただいておりますので、できるだけ早い段階で、かさ上げの工事ができるよう、再度要請させていただきます。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 29 年度にはやりたいというふうな目途もあるということなので、で

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

きるだけ早くにやってほしいなというふうに思います。

それから、それであと、続き、他のことでまいりますけれども、地方自治体の本旨は、いつも私、言っていることでありますけれども、国の悪政から住民の生活や権利を守ることにあるというふうに思うわけであります。新年度予算を作るに当たり、この住民生活実態をどのように判断をして、この予算を立てたのか、大変、重要だというふうに思うのです。やはりこの、どういうふうに今の生活実態を認識して、認識というか認識しながら判断をして、予算を組んだのか。そこを伺いたいと思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 予算編成に当たっては、一番は、私自身のこの立場に立たせていただくに当たっての公約というのがございますから、そのことを一つ大前提としておいて、そして、今どういう町民の皆さんの思いを予算として挙げたんだと、こういうことだと思うのですが、やはり、この1年間の中で、いろいろな各種団体、そしてまた地元の地域の皆さん方、いわゆる町政懇談会等々、いろいろな中で200回くらい、1年間で出させていただく機会があるものですから、そういう皆さん方とのいろいろなお話を通じながら、いろいろなお考えを組み入れながら、今年も予算にも反映した部分もある、こういうことございます。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13番（荒井賢蔵） 今年度はもう既に予算ができていますので、来年度に向けて、また9月くらいの時に予算編成に向けて、この場で言おうとは思いますが、やはり、住民の実態、生活実態をしっかり把握すると、そして、それに沿ったような要望に向けて予算編成していくというのは、非常に大事だろうというふうに思うので、また、この問題については、もうちょっと、次期の議会の方で触れたいというふうに思います。

あと、社会保障と言えば、やはり医療介護が第一に頭に浮かぶわけですが、安倍自公政権での、この医療の関係を見ますと、非常に大変なあれなんで、皆が受ける医療水準を定める診療報酬、これは小泉内閣以来、10年ぶりに1パーセントを超える引き下げで、今でも悪化している医療機関の経営をさらに圧迫し、医師・看護師不足に拍車をかけることになるというふうに言われております。また、大病院を紹介なしで受診すれば、初診料とは別に5千円以上の特別料金が掛かると言われておりますし、また、入院給食費を1食260円から360円に値上げして、更に18年度から460円に値上げするというふうに言われているわけであります。このように、国民にとっては大変な問題だろうというふうに考えるわけであります。

町長は自治体の長でもあり、信越病院の開設者でもあるわけですね。そこで、その立場で考えた時、これら医療改悪に対して、どのような見解をお持ちか、伺いたい。

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 国がこの間、この間と言いますか、前にもちょっと議員さんからも御質問いただいたわけですが、要は、医療費については、まさに受け身の立場ですね、医療機関というのは。それがいろいろな状況の中で、プラス、マイナスになるという改定、改悪とおっしゃいましたけれども、改定があるわけですね。これはそういう面では、全体の国のあり方の中で、それぞれの機関が決定をされるということですから、ただ、私も医療の開設者、自治体病院の開設者という立場では、やはり、経営ということを考えたときには、大変厳しいということをおっしゃるを得ないというふうに思うんですね。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 大変厳しいということは、あまり町長としては好ましくないという考えでいいんですかね、そういう考えで。支持しないというか、医療の改正については、という考えでいるということで、いいんですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） それは、なかなか言葉で、どういうふうな表現をするかというのは、微妙な問題ですよ。ですから、全体の中で改正されるということは、一つの制度上の中でやっているわけですから、そのことは、一つの方向性として受けざるを得ないでしょう。ただ、現実問題、私の立場からすれば、病院開設者という立場でもありますから、自治体病院のその立場からすると、大変厳しいものがあるということです。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） この医療介護は、どこの自治体でも非常に大きな課題だろうなというふうに思っています。それだけに保険料がどうなるかというのは、非常に、住民にしてみれば気になる場所です。予算で見ると、引き続き、信濃町は県内でも安い方にあるのではないかなという判断でいいのでしょうか。その辺は、どういう判断をしていますか。国保・介護の関係ですが。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

◆住民福祉課長（高橋 徹） 国保の保険料にしましても介護保険料にしましても、県下では安いと言いますか、介護保険につきましては一番下になりますし、安くなっております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

◆13 番（荒井賢蔵） 是非、これからもその姿勢を続けていってほしいなというふうに思います。

それから、今年の予算編成で、総務課長の出した方針の中で、前年に倣えではなくて、ゼロベースから作り上げるんだというようなことがあったと思うのですが、それぞれの課内で、予算編成に当たって、特別、留意点と言いますかね、こういう点は力を入れようと思ってやったよ、というようなことがあれば、それぞれの課として、どういふ点かというのをお聞かせ願えればというふうに思うんですが。端からお願いします、いくつかあるわけなんですけれど、総務課から。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 総務課として申し上げます。総務課としましては、当然、総務課の事業がございますので、そちらにつきましては、ゼロベースで見直す中で、町の発展につながるような事業を予算要求させていただいているところでございます。

町全体としますと、町長が公約として掲げます、健全財政の運営に努めるという柱の一つでございますが、そういう中で、総務課としまして予算編成に当たりまして留意した点につきましては、まず、国・県補助につきましては、当然、その情報を入手する中で、できるだけ充当していくということは当然でございますが、予算の規模、それぞれの事業の規模につきましても、普通交付税に措置されている額をにらみながら、それを過大に超えないような工夫、また、過疎債、また他の起債がございますけれども、単純に町税のみを充当するというのではなく、交付税措置のある起債を充当していくような形で、事業も組み換え、また、事業内容も見直しております。

また、もう一点は、これは歳入に直接充当先が出てくるわけではございませんけれども、特別交付税制度がございまして、こちらにつきましても、特別交付税制度が当たる事業ということで、事業内容を精査して、今年の予算につきましては、前年対比 4.8 パーセント増という、大幅な伸びでございますけれども、その中でも単純に事業費が伸びているということではなく、財源充当を重点に見る中での予算編成に努めてまいりました。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 産業観光課につきましては、まず一点ですけれども、国の施策によりまして、TPP等の関係によりまして、農業者の影響が出る中で、それに対する対策と、先ほどの中で、農業関係のアンケートを昨年取った中では、5年後・10年後には、今の基盤が守れないという情勢が結果として出ましたので、担い手育成等に重点を置きまして、農業基盤の充実を図っていくというのが一点でございます。

二点目につきましては、ここは観光地でございますので、交流人口を広げるという意味で、それにはやはり環境に優しいと言うか、施設を整備したり、それぞれの施設の充実を図るということ、いろいろ子ども模擬議会でもお話がありましたとおり、御意見を

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

いただいたとおり、誘客が下手だという面で、相当、誘客に工夫を凝らした施策を留意点としています。

また、信濃町だけでは振興、観光振興とか誘客ができないということで、広域で、特に妙高市と、飯山を中心とする 9 市町村等も連携した中で大会等も開催しながら、交流人口の拡大に努めていくというのが、留意したところです。

●議長（小林幸雄） 松木建設水道課長。

■建設水道課長（松木哲也） それでは、建設水道の 28 年度事業の主なものということで、回答いたします。まず、一番、先ほども議員から御質問がありましたけれど、来年度、空き家対策の調査、事業を 28 年度から新たに設けました。それに伴いまして、空き家をお持ちの方、また、借りられる方のリフォーム補助金も、追加をさせていただいたところです。既存の住宅リフォームについては、そのままの予算計上をさせていただきました。継続という形で、こちらにつきましては、毎年予算が全て消化されるというような状況が続いていますので、28 年度についても同じように行います。

それから、社会資本整備総合交付金事業ということで、27 年度は除雪のドーザーを購入させていただきましたが、28 年度はロータリー車の購入ということで、金額的にはその分 1000 万円ほどの増額ということになっております。

それから、子どもの通学路の安全対策の一環といたしまして、柏原の総合会館の前の町道に歩道の設置を今年度事業で行います。

それから、新規の事業として、野尻湖の町有栈橋、菅川地区で地元の要望等ありますし、議員さんからの請願採択等もありまして、一昨年、総務課の方で調査をしました。今年度につきましても、実際、建設をする予定地についての調査設計の方を行ってまいりたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

◆住民福祉課長（高橋 徹） 住民福祉課ですけれども、まず、国保会計につきましてですが、年々増加しています医療費に対しまして、所得の減少、また負担軽減の拡充によって、保険税そのものが減少するという状態になっています。そういう中ではありますが、28 年度につきましては、基金の取り崩しによりまして運営を行っていきたいと思っております。

また、介護保険につきましても、28 年度から総合事業への移行ということになっております。こういうことに対しまして、利用者さんに御迷惑のかからない予算編成をしております。

また、一般会計になってくるのですけれども、予防事業としまして、人間ドックの助成については 62 歳・65 歳の年齢の追加をさせていただき、また、基本健診の中で心電図の助成の追加をしております。また、3 歳児検診で幼児視力検査を実施し、それぞれ早期の発見ということで、早い時期から治療を行っていただけるようなことを考えております。

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

また、環境になりますけれども、平成 30 年度、年度末にはごみ処理施設の長野広域連合への持ち込みというのがまた始まってきます。そういったことから、可燃ごみの収集や、また運搬の、そういったいろいろなケースが出てくるかと思っておりますので、そういったものの計画立て、また、それに向けて、ごみの減量ということを目的としまして、28 年度はごみ処理機の購入の補助というのを進めていきたいと思っております。

福祉に関しましても、高齢者はもとより、障害者の皆さんが住み慣れた地域で暮らせるという、障害者サービスの充実を図っていききたいと思っておりますし、幅広い分野で、それぞれ、いろいろと重要とされることが住民福祉課にはあるわけですが、医療費につきましても、予防事業と関係しますし、介護福祉につきましても、それぞれ関連するところがありますので、連携して、事業に当たっていききたいと思っております。以上です。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 大変、大事な内容が、今、答弁の中からありました。是非しっかり、住民のために、今のそういうことを実践して行ってほしいなというふうに思います。

先ほど産業観光課長の方から、TPP の農業者への影響というようなこともありました。やはり、信濃町の農業を考えると、どうしてもこの TPP を無視して考えるわけにはいかないだろうなというふうに思うわけであり、国が大筋合意したと言われているこの TPP 交渉、日本政府では、例外を確保したんだというふうに言っておりますけれども、アメリカは、通商代表参加の貿易のための農業諮問委員会というのがあるのですが、ここは、どの物品も除外されなかった、そういうふうに勝ち誇っているという報道があるわけですが、国会で決議した除外項目、信濃町の基幹産業でもある米、乳製品、これも除外項目の中にあるというふうに思うのですが、しかし、実際、アメリカが言うような状況であるとするならば、信濃町の農家にとっては、大問題であるなというふうに思うわけであり、そうでなくても安倍総理の方針では、減反政策の方針が外されて、米価は限りなく安値安定になってしまうという心配があるわけですね。

そこで、町長の TPP に対する見解、これを伺いたいと思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） TPP 関連につきましては、前回、前議会でも御質問と言いますか、あったわけございまして、全体的に日本の農業について心配な分野も出てくるというようなことの中で、それぞれ国においても、その関連対策をするんだということで、既に、補正予算を含めて対応して、県の方もその対応をやっているというふうな状況でございます。これは、この前も荒井議員の御質問だったと思っておりますが、申し上げました。例えば、主幹作物であります米という問題では、信濃町においては、これがアメリカとオーストラリアですか、そこから 8 万数千トンの輸入枠になると。その時も

申し上げたのですが、それに伴って、やはり全体の米価が引き下がってしまう、これが非常に私も心配する部分なんです。ですから、そういうことのないように、例えば、国においては別枠としての扱いをするんだと、こういうことでありますが、全体としてどういうふうな流れになるかというのは見極めないと、今、何とも言えないわけであり

ます。
そしてまた T P P 関連については、この間も、県の副知事の講演と言いますか、説明と言いますか、そういう会がありまして、県としても 2 月補正も含めて、とりあえず四十数億円ですけれども予算措置をして、それぞれ対応をすると。そしてその中では、やはり機械的な援助と言いますか、農業機械の導入に当たっての支援をすとか、担い手の支援をしていく等々のことも、県としても力を入れてきているところであります。

町としても、今、担当課長が言われましたように、いろいろと制度の中で更に拡充をして、これ当然、国の制度であっても、町も負担、そして予算負担をするわけですから、そういう中では、いろいろな段階で、拡充と言いますか、させていただいて、新年度予算も組ませていただいているところでございますので、お願いしたいと思

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） T P P ね、やはり、国会決議では、重要品目の除外が認められなかった場合は脱退するんだというようなことが、国会決議としては、あったというふう

に思うんです。しかし、実際、除外されなかったわけですけれども、そうしたとき、自治体の長として、町長、国に対して、やはり、意見書を上げていくと、信濃町の農業を考えたときに、これは非常に大事ではないかなと思うんです。そういう考えはありま

せんか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） これは例えば、長野県の町村会、57 町村の町村会としても T P P 関連についての要望というのは、国に対してもしているわけであり

ます。ですから、そういう意味からしても、単独で云々するというような、今、私自身は考えは特に持っておりません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 確かに、県全体でもそうだけれども、各市町村としても、長として上げていくのは大事なというふうに思うので、また、是非これを検討してもらえればというふうに思います。

次に、子どもの医療費窓口負担無料化について伺います。

以前、町長は私の質問の答弁で、県に対して働きかけていく、というふうにしていただ

と記憶していますが、どのように働きかけを行ってきたのか、そして今現在、その結果

どうなって、今どういう状況にあるのか、伺いたいと思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 医療費の窓口無料化という意味ですよね。そのことについては、私も就任した間もなくの頃、荒井議員からも御質問と言いますか、いただいたわけでございます。

今、県に対しては、1年間に何回か、県知事なり副知事になりますが、長野地方事務所管内でそれぞれの首長が集まって、その懇談と言いますか、会議があるんですね。そういう時も、私もそうですが他の首長からも、そういう意見が県の方に寄せられるんですね。先ほどの永原議員さんの答弁ともちょっと重複する部分があるのですが、町村会、つまり、長野県の57町村会として、長野県町村会として、そのことを県に要望しているんですね。県は、県として国の方に要望している。こういう段取りになっているんですね。私どもの県に対する要望の回答と言いますか、県の回答的なことを申し上げれば、先ほど言いましたけれども、県としても、国の今の医療費のあり方検討委員会と言いますか、この夏に結果が示されるという、そのことを動向を見て、結果的にその流れの中で、各市町村とまた調整を図らせて、場合によれば、制度変更も含めて対応したい、こういうことですので、一つずつ段階が上がっているのかなと、私は思っていますけどね。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13番（荒井賢蔵） 子どもの医療費窓口無料化というのは、これは、各市町村段階で、自治体でできる、そういうような問題ではないと、これは、おっしゃるとおり、県としてやるということであれば、対応可能なんです。全国の中でも37・38の県はやっているというような話も聞いているわけけれども、是非、長野県でもこれを行うように、是非、大いに運動を進めていってほしいなというふうに思うんですよ。各自治体、本当は、この問題については、各自治体独自で、なかなかできる状況ではないので、是非そこは、窓口無料ではなくて医療費の無料化というのは、各自治体で、結構、どこの自治体もやってくるわけですがけれども、是非、窓口で金の心配なく、やはり、子どもを持っている親が、かかるような、そういうようにしていく必要があるというふうに思うので、是非、このことも大いに、よその自治体とも協力しながら、進めていってほしいなというふうに思います。

次に、病院について伺います。

安倍政権は、全国医療費適正化計画を行っております。そして、各県に地域医療構想を計画させ、医療費やベッドの削減などを計画させているというふうに報じられておりますけれども、病気を悪化させていくような削減は、非常に困るわけですね。健康診断など、重病にならないようにすることなど、皆が心掛けてこの医療費削減に取り組むことは、大切だろうというふうに思うわけです。

しかし、具合が悪かったらいつでもかかる、こういうことは非常に必要だし、大事

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

だろうというふうに思うのです。そういう立場から言っても、信越病院は信濃町にはなくてはならない病院だというふうに考えます。病院あり方検討委員会の答申、町長も当然読まれたらだろうというふうに思うのですけれども、この答申をどのように捉えて、住民の意思にどういうふうに応えようとしているのか、町長の考えを聞きたいのですが。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 病院の問題については、また他に、青柳議員さんからも御質問いただいておりますが、私自身も公約の一つにもなっているわけですね。ですから、そういう中で、あり方検討委員会が答申、いろいろと御苦勞な協議をして、一つの方向性、あり方検討を出されたわけです。そのことは私も目を通させていただきましたし、大筋の中で、ほぼ同じような考えだなど、こういう見方を私はさせていただいているんですね。要は、これからの中で、どういうふうなスタイルと言いますか、手法で、現実そこに結び付けていくかということなわけですが、これは御案内のように、昨年から基金を積み立てさせていただいて始めたわけですから、去年 1 億 3 千万、今年当初予算の中で 1 億というような数字を入れて、トータル 2 億 3 千万、そしてまた、場合によれば決算の時点でどういうふうになるか、そのことも視野に入れながら、できるだけ早めに、頭金、と言うと言葉が悪いですが、後年度の負担を少なくする意味からも、基金の確保をしっかりと進めてまいりたいというのが今の段階ですから、そのことで、また御理解をお願いしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 病院については、基金を、頭金だけでも積み立てて、建て替える方向であるというような答弁だったと思うわけですがけれども、問題は、病院を建て替えるのはいいけれども、問題は、病院機能をどうするかということだろうというふうに思うんですね。病院機能、と言った時、やはり診療科目、これはどうなるかということが非常に大事で、どういうふうに整えるかと、この診療科目、問題は診療科目をきちっと整えることも大事だけれども、病院の機能としては、休日や夜間の対応なども非常に大切だろうというふうに思うんです。以前にもちょっと言ったことがあるんですけど、休日・夜間の対応、信越病院に断られたので飯綱病院に行った、というような声も聞こえてもきたわけですがけれども、こういう点で、町長は、開設者でもあるわけですよ。病院の。そういう点で、医師や看護師やら病院の職員の皆さんと、ある程度定期的に懇談会議を持って、そして、こういう声をきちっと開設者としての立場で話し合いをしたりしているのかどうなのか、そこを伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 病院内部の職員の皆さんと定期的に話し合いをしているかということについては、個々の職員のそれぞれの集団として、その職員の皆さん方と、それをも

って時間を設定して話し合いをしているということはありません。ただ、私の考え方もたいなことは、いろいろな節目・節目の中で、病院に行って、全体の朝礼的なものもありますから、そういうところでは申し上げています。そしてまた、私、大事なものは職員も当然そうなのですが、ドクターとして大変御苦勞をいただいている、院長、副院長のお立場と言いますか、そしてまた看護部門だとか事務部門、この皆さんとは、去年も 2 回くらい、別に時間を設けて、そのいろいろな情報交換等もさせていただいているというのが実情です。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） おっしゃるとおりで、医師や看護師さん、非常に、大変御苦勞願っている、それは私も十分、分かっているんです。問題は、そういう中でも町民からのそういう声があるというようなこと、やはり、率直に医師や職員の皆さんに伝えて、少しでも皆さんの要望に沿えるような、そういう方向の病院運営を目指してほしいなというふうに思います。

先ほど、病院については頭金とするために積立をしていると、今年も予算の中に 1 億からありまして、今年度で 2 億になりますか、問題は、建て替えるとして、じゃあ、スケジュール的にどんなような考えでいるのか、そこを伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 正確なスケジュールというのは、今のところまだ持っていません。そしてまた、あり方検討委員会の中で、おおよそ 20 億から 30 億掛かるでしょうと、こういう答申内容をいただいているわけですね。ですから、それに対する頭金というのは、私いつも申し上げるのですが、最低でも半分くらいは必要なんじゃないですかと、こういうことを思っているわけですから、おのずとそういう中でのスケジュールになってくるかなど。だから早めに基金を一生懸命積みたいと、こういうふうに申し上げているところです。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） あり方検討委員会ですか、あの中でも、スケジュールみたいなものはありましたよね。計画段階から 5 年くらいまでは掛かるんだよというような見方だったというふうに思います。先ほどの町長の話だと二十数億掛かってしまうよと、せめて半分くらい頭金で、ということになると、十数年、1 億円ずつ積んでいたのでは、すごく長く掛かってしまうわけですよ。やはり、そんなにむこうへ行かないで、もっと早い段階での着手と言いますか、そういうことを町民は望んでいるというふうに思うのですが、そこはどうですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） ですから、そのことを含めて、どれだけ前倒しでできるかということ、今、一生懸命やりたいなというふうに思っているのです。そうは言っても、他の行政上の仕事というのもあるわけですから、その全体を考えながら、少しでも多く、基金を積む努力をさせていただいて、町民の皆さんの願いに添えていくというのが、私の与えられたことかなと思っています。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） それは、ごもっともなことだというふうに思うんですよ。確かに私もそうだろうとは思いますが、しかし、町民が一番知りたいのは、およそ何年ぐらいで、いつぐらいには病院の建て替えを考えるよというようなことを、やはり、一番知りたがっているんだろうなと、そういうスケジュール的なことを知りたいのだろうなというふうに思うんですよ。そういう面で、ちょっと、正確ではなくてもいいわけですよ、今の段階では。もちろん基金を積んでいって、こうやるわけですから。しかし、町長としては、いつぐらいを目途に、設計の段階に入りたいんだというような、あれがあるかどうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） なかなか、申し上げることがいろいろな面で、また影響してきますので、私は本当にできるだけ早くやれるような努力をさせてもらいたい、ということで、今の段階では、そのことを申し上げさせていただきます。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 微妙な問題があるから、なかなか言えないということですので、それは了解します。問題は、建物を建てることも大事だけれど、しかし、先ほども言いました、病院機能の充実、ここは非常に大切なんです。今の国の医療政策では、非常に大変だろうなというふうに思うわけです。そんな中でも、医師・看護師の確保に、一層尽力をして、尽くして行ってほしいなというように要望して、最後に町長の力強い決意のほどを、もう一度伺って、終わりたいなというふうに思うんですけども、一番聞きたいところは、およそ何年ぐらい、というところは、非常に微妙なところで聞きたいところなんです。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 決して私、そういう意味で、荒井議員さんに意地悪を言っているのではないんですね。でも、今のこの立場の中で、本当に与えられたことを早く作りたい、それは全く同じなんです。そしてまた今の医療の中で、今も一生懸命、現場で、病院で

平成 27 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(3 日目)

は、やっていただいていますよ。そして更に、そのことが一次医療、まさに一次医療中心として、町民の皆さんの医療の期待に応えるという、そういうことを目指しながら、早く箱ものを造る、これはそういうことで、先ほどから言っている内容でございますので、できるだけ早くということで、御理解いただきたい。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 是非、町民のそういう願いをしっかりと受け止めて、早めの対応を望みたい。そしてまた、しっかりと医師や看護師の皆さんと、職員の皆さんとも話しながら、病院の運営に携わってほしいということを要望して、私の質問を終わります。

●議長（小林幸雄） 以上で、荒井賢蔵議員の一般質問を終わります。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会といたしたいと思えます。これに御異議ございませんか。

(なしの声あり)

御異議なしと認めます。

よって、本日はこれで延会とすることに決しました。

念のため申し上げます。明日 8 日の本会議、一般質問は、午前 9 時 45 分の開会となりますので、時間までに御出席ください。御苦勞様でした。

(午後 4 時 53 分)